

# 気球船



第 226 号

平成 21 年 11・12 月  
文 部 科 学 省  
初 等 中 等 教 育 局  
国 際 教 育 課  
編 集 ・ 発 行  
初 版 発 行 昭 和 62 年 12 月

海外子女教育総合HP: [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/clarinet/main7\\_a2.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/main7_a2.htm)

## 世界の窓

### シラチャ日本人学校設立のこと

シラチャ日本人学校  
校長 松田 幸造

シラチャ日本人学校は、平成21年4月20日、タイ国の首都バンコクの郊外、高速道路で南東へ約1時間強の位置に、91名の子どもたちを迎え産声を上げました。ここに至るまでの、内外関係者の皆様のご尽力に心から感謝申し上げます。以下は、学校設立に至る経緯、学校概要、タイ王室の王女様ご臨席の開校式典、開校後の学校の様子などです。

#### 1. シラチャ校設立の背景

皆様ご存じの通り、タイ国には、世界一の歴史(昭和31年開校)と世界一の児童生徒数(平成21年4月現在、2,504名)を誇るバンコク日本人学校があります。

我が国とタイ国の結びつきは近年ますます深まっており、最新の外務省調査では、在留届を出している邦人数は、タイ全土で4万4,114人、バンコク都で3万2,283人、そして私たちのシラチャ日本人学校があるチョンブリ県では2,996人にのぼります。

このタイ国に2番目の日本人学校としてシラチャ日本人学校が設立されることになった経緯を大元までさかのぼりますと、このような日本とタイとの経済的結びつきの進展と、バンコク都が位置している地形的な問題に行き着きます。

皆様ご存じのようにタイ湾に面したバンコク都にはチャオプラヤー川という大きな川が流れており、それが流れ込む海は浅く、大きな船が着岸できる港湾施設の建設には限界がありました。そこで建設されたのがバンコク都の東南部100キロほどの位置、チョンブリ県の新しい港湾施設で

す。この港は、すでに世界有数の取扱量を誇る港湾施設となっていますが、この港湾の近郊にはたくさんの工業団地が形成され、そこに日本企業が進出してきたという経緯です。



#### 2. シラチャ校設立に至る経緯

私たちのチョンブリ県シラチャ市に邦人が滞在するようになったのは、わずか10年ばかり前からのことです。シラチャ日本人学校の前身としてシラチャパタヤ補習授業校が誕生したのは8年前のことでした。

この補習校の児童生徒数が100名前後となったのが、3年前の2006年春のことです。この年、本校地元のチョンブリ・ラヨン日本人会において、3年後の日本人学校開設にむけて運動を開始する旨の決議がなされました。その後、新校設立のための諸条件調査、バンコク日本人学校の設置者である泰日協会学校理事会や大使館など各方面への支援要請などが進められました。

その活動を最も前進させたのは、泰日協会学校(バンコク日本人学校)理事会の強力な全面的な支援でした。タイ国では、外国人法人による学校設立は認められていません。従って、地元日本人会が設立母体となる学校は認可されない、という法令上の大きな壁がありました。

タイ国文部省との協議の中で判明したのは、現在のバンコク校と同様、タイと日本の友好・親善・協力を推進する団体である「泰日協会」が設

置者となることしか、正式認可を受ける方法がないということでした。

この協議の過程で、泰日協会学校理事会が、シラチャ校の設置者にもなり、開校後はバンコク校、シラチャ校を一体経営すると定めていただいたことが、本校の設置基盤を盤石なものとし、諸準備の進捗状況をゆるみのないものとした大きな要因となりました。

本校設立に際しては、邦貨にして約8億円ほどの支出を要しています。校舎は2008年12月に完成しました。この資金の手当ては、大使館を通じて国庫補助を認めていただいたこと、地元企業およびバンコク日本人商工会議所からの多額のご寄付、バンコク校の自己資金などがそれに充てられました。

また、開校以前から、バンコク校においては、シラチャ校設立準備委員会を設けていただき、そこにシラチャ校担当者を置いていただくなど、開校に伴う諸準備のために、相当のご尽力をいただきました。2月下旬のある土曜日、数千冊に及ぶ新書の整理登録や、日本から購入した備品の梱包解除、その登録整理などで、100人規模の先生においでいただき、奉仕活動をしていただいたことなど、鮮明に思い出されます。

本校のこちらでの正式名称は泰日協会学校シラチャ校となっています。本邦文部科学大臣の認可は2008年12月26日、タイ文部省の認可は2009年1月22日付けで取得しております。私自身、この学校設立に関わったものとして、開校までの経緯をつぶさに知るものの一人ですが、実に多くの方々のご厚意とご協力があって、ここまで立派な学校が設立されたのだと思うと、心の深いところから感謝の念がわいてまいります。

### 3.シラチャ日本人学校の概要

本校は、発足当初からまれに見る施設設備や備品を備えた在外教育施設としてスタートしました。やりくりということがあまりなく、必要なものは全て備えていただいたという感じです。

普通教室は12教室、図書室、ITルーム他、必要とされる特別教室の全て、冷房完備の体育館、自動浄化装置つきの25mプール、1周200mのトラックを描いてもまだ余裕のあるグラウンドなど、バンコク校のこれまでの運営を踏まえて設計された大変美しく使い勝手の良い校舎が完成しました。

2学期の始まりの児童生徒数は、4月より8名

増加し99名となっていますが、今後300名程度までの児童生徒数なら十分対応できる備えとなっています。

教職員は、校長を含め6名が文科省派遣教員、9名はバンコク校で専任教員として2～3年の経験のある者(養護教諭を含む)、そして日本語の話せるタイ人ディレクター(タイ国においては必須:校長格)、それに事務員2名、用務員4名、運転手3名という布陣です。ちなみに、事務長はバンコク校、シラチャ校の兼任となっております。

これらは、バンコク校とシラチャ校を一体経営するという基本的な考え方に基づいて整備されたもので、同じ授業料の下、どちらの学校でも同じ条件で学べるようにということが基本となっております。

### 4. タイ王室シリントン王女様ご臨席開校式

6月25日、タイらしい透き通った青空の下、タイ王室シリントン王女様のご臨席をいただき、開校式典を執り行いました。

式典には、タイ文部省よりのご来賓、県知事、地元市長および地元教育委員会、地元警察、在タイ日本国特命全権大使、泰日協会長、泰日協会学校理事長、寄付金拠出企業の皆様、保護者、教職員など多くの関係者が打ちそろった盛大かつ格式のある式典でした。

シリントン王女様には、校名の除幕、校舎内視察及び授業参観をしていただき、さらには開校記念の白いだるまに眼を入れていただきました。



王女様のご来臨は地元の方々にとっても一大行事でしたので、沿道にも王女様お印の紫地の装飾が飾られ、また、楽隊の演奏でお出迎えするなど大変華やかな雰囲気の間作りがなされました。

王女様も笑顔で子どもたちの様子を参観され、

時にメモや写真を撮られるなど、終始和やかな雰囲気の中で本校を視察され、最後には素敵な学校ですぬとお言葉を残され、学校をあとにされました。

当日は日本とタイ双方の国旗も掲揚させていただきました。お陰様で、大変立派な門出となりました。これも、2007年が日本とタイの修好120周年に当たるということで、泰日協会にその記念事業として本校設立を位置づけていただいたことで実現したことです。その巡り合わせと関係者のご尽力にも心から感謝する次第です。

## 5. シラチャ日本人学校開校後の様子

本校へ入学した児童生徒は、インターナショナルスクール・補習校に在籍していた子どもが半分、残り半分がバンコク校からの転入と日本からの転入でした。

児童生徒数は、金融危機の影響もあり、予想よりは若干少なめでしたが、増加傾向ははっきりしておりますので、来年度以降も順調に増加していくものと思われま



保護者の声を聞かせていただきますと、子どもが日本人学校へ行くのが楽しいと言っているとの声が多く、大変有り難いことと思っております。

お陰様で授業や各種学習活動は順調に展開されております。本年度は、バンコク校のカリキュラムを参考にして教育課程を組みましたので、すでに現地理解教育としての校外学習などは精力的に進めております。ただ、小学部高学年生はまだ10名程度と少なく、中学部生は全部合わせても10名しかいない関係で、今年度の修学旅行や臨海学校はバンコク日本人学校と合同で行わせていただきました。

児童会や生徒会も組織され、子どもたちの各委員会活動も活発に行われています。

この11月には初めての運動会を実施し、地元シラチャ市と地元日本人会が合同開催する「日

本祭り」にも参加する予定です。

子ども、教職員共々、新しい学校ができあがっていく過程を楽しんでいますと申し述べてご報告とさせていただきます。

## 新生ドーハ日本人学校開校

ドーハ日本人学校  
校長 酢谷 昌義

## 1. 厳しい時を乗り越えて

現在は中東の資源大国となっているカタール国に設置されていたドーハ日本人学校は、2001年7月14日、極端な児童生徒数の減少により閉校されました。それから8年、カタールの国自体も一変し在留邦人の数もずいぶん増え、多くの方々のご支援により2009年4月10日、一旦閉校したドーハ日本人学校が再開・新設されました。これは在外日本人学校史上、今までに例のないことです。

校舎はカタール政府から無償で提供されました。体育館こそありませんが、運動スペースとして使えるホールを備えた素晴らしい新築校舎です。

しかし当初は学校用品がなかなかそろわず、校舎内には児童生徒用の机と椅子以外には何もないという状況の中、在外公館・日本人会の皆様のご協力により「手づくり」という言葉がぴったりと当てはまる入学式が行われました。期待と不安の両方を胸に、いよいよこれから「新しいドーハ日本人学校のスタート」だと、身の引き締まる思いでした。



[ 平成21年度入学式 2009・4・10 ]

式の中では、児童生徒代表の「日本人としての誇りと、ドーハ日本人学校の児童生徒としての

自覚を持ち、精一杯頑張ります。」という力強い宣誓が行なわれました。

子ども達だけでなく、私達自身もドーハ日本人学校の職員としての誇りと自覚を持ち、少しずつではあっても確かな一歩一歩を刻んでいきたいと決意いたしました。

## 2. 大きな期待を背に

校舎と机・椅子の他には何もないところから、新生ドーハ日本人学校の教育がスタートしました。子どもたちと共に試行錯誤しながら、学習環境整備と学校創りを進め始めました。しかし今度は5月14日の開校式に向けた準備に追われ、毎日が目の回るような忙しさでした。

開校式当日、カタール政府からは

○ アル・アティーヤ 副首相

○ アル・マフムード 教育相

○ アル・サダ エネルギー相

という3人の大臣の出席を賜り、厳かで盛大な式典を実施することができました。

またわずか8名の全校児童生徒ではありませんでしたが、子ども達による学校紹介とこの日のために練習を積んだ合唱・合奏を立派に披露してくれました。

日本・カタール両国から多くの来賓が出席くださったこの開校式は、ドーハ日本人学校に対する期待と両国関係の重要性をひしひしと感じさせられる貴重な機会となりました。



[ 開校記念式典 2009・5・14 ]

## 3. たくましい子どもの育成を目指し

日本を離れて生活・学習していくことを前向きにとらえ、自分自身の力で自分の前にあるハードルを越えていくことができれば、海外での生活をより豊かで実り多いものにできる、そんな子どもにしていきたいという願いから、以下のような経営方針のもと日々の教育実践に取り組んでいます。(詳しくはホームページをご覧ください)

## 【学校教育目標】

確かな学力と豊かな心を身につけた  
祖国に誇りを持ち世界に貢献できる  
たくましい子どもの育成

## 【中期目標】(平成23年度達成を目指す)

- ① 自ら考え進んで学習する子どもを育てる
- ② 相手を思いやり感謝の気持ちを素直に表現できる子どもを育てる
- ③ 進んで体を鍛え何事にも粘り強く取り組む子どもを育てる
- ④ 保護者・日本人会と一体となった教育を推進する

(下線部は同時に目指す子ども像を表す)

## 【短期重点目標】(平成21年度の重点)

- ・学習の基盤となる基礎的、基本的事項の徹底
- ・小規模校の特性を生かした個に応じた指導の充実
- ・学習効率を高める習得、活用、探究学習の工夫と実践
- ・個性の尊重と自己有用感の醸成
- ・意図的計画的集団活動の工夫と実践
- ・計画的継続的体力作り運動の実践
- ・チームティーチングによる教科体育の充実
- ・学校情報の積極的発信と特色ある学校行事の展開
- ・外国語指導講師の活用と現地理解学習の推進



[ 校門から見た校舎全景 ]

## 4. 小規模日本人学校の特色を生かす

一般的に少人数集団の中では子どもの競争心や向上心が育たず、集団での人間関係の取り方が分からなくなると心配されます。しかしこの競争心や向上心は常に他人を意識し他人と比較したものです。

本来向上心は個人の学習の充実感や興味関心から生まれるもので、それが生涯にわたる学習の充実へとつながる力となります。そのために本当に必要なことは、「個に焦点を当てたきめ細かな指導」ではないかと考えています。

またこれからの社会に求められる集団は、しっかりとした自己を持った人の集まりであると考えられ、一人一人の自己の確立を同年齢ばかりの人間関係の中だけでなく、大人を含めた異年齢間の交流において養っていくことが重要になります。

以上のことから、児童生徒相互・児童生徒と教員間の心の触れ合いを基盤として行なわれる、ドーハ日本人学校の教育環境は大変効果的であると思います。また異年齢集団活動の創意工夫は、小規模少人数を生かす最も重要な点であり、常に意識しなければならないと捉えています。

日本国内では経験できない小学部・中学部の全校による活動を取り入れることで、それぞれの立場の自覚と認識を深め、現代の子ども達に最も欠けていると思われる「自己有用感」や「自己肯定感」といった感情も育てたいと考えています。

#### 【素直な感情の交流を大切に】

休み時間になると全校児童生徒15人が一緒になって、いろいろな遊びで盛り上がります。最も人気があるのが「こおり鬼」と呼ばれる鬼ごっこです。校舎内の運動スペースで、上級生が下級生の手を引いて逃げたり、一生懸命に助けを求めたりと、微笑ましい場面がたくさん見られます。こうした遊びを通して素直な感情の交流を図ることができる時間は、子ども達の成長にとって大変貴重な場になっています。



[上級生と下級生が一緒になって]

#### 【全校による児童生徒会活動】

児童生徒会による委員会活動も全校で組織しています。日本では高学年にならなければ委員会活動に参加することはありません。低学年のうちから高学年と共に活動することは大変ですが、

身近に良いモデルがいくつもあるということは、いろいろなことを学ぶ上でとても意味のあることです。小規模少人数であるからこそ、こうした全校での活動を意図的計画的に実施していくことで、より効果的な体験を積み重ねることができると思います。

#### 5. 国際理解教育の創造

日本人学校の特色と言えば、様々な異文化に直接触れることができるという点が挙げられます。日本では見ることも触れることもできなかった「ひと・もの・こと」があふれています。

しかし中東という特殊性もあり、現地校等との交流活動にはなかなか難しい問題も含まれています。そうした中で、せっかくの環境をどのように工夫していけばより豊かな国際理解教育にできるのか、これは新設校であるドーハ日本人学校の大きな課題です。この課題解決のためにも、まず私達派遣教員自らが現地理解をはじめとした自己研修と研鑽に励み、よりよい教育活動の創造に努めていかなければならないと考えています。

#### 【地域理解校外学習】

第1学期には全校児童生徒で「スーク」と「イスラミックアート・ミュージアム」に出かけました。それぞれの学年でねらいを設定し、子ども達一人一人が課題を持って学習に取り組みました。

日頃の英会話学習の成果を発揮しようと、どの学年もお店の人に積極的に話しかけている姿がとても印象的でした。

見学後は一人一人が学んだことをまとめて、発表会を持ちました。様々な課題に取り組んだものを全員が発表し合うことで、お互いに認め合い高め合う活動にすることができました。



[スーク・ワキーフの見学]

#### 【日本語スピーチ大会】

カタールで日本語を学んでいる方々との交流を深めるねらいで、ドーハ日本人学校を会場に「日本語スピーチ大会」が行なわれました。これ

は大使館との共催事業でしたが、日本とカタールの関係を考える上でとても貴重な行事になりました。

日本に興味を持ち日本語を上手に話すカタールの人たちに、聞いていた大人も子どももびっくりさせられました。また外国にいて日本語でコミュニケーションがとれる喜びも感じることができました。

言葉によるコミュニケーションがどれほど大切なことなのか、聞いていた子ども達にも伝わった様子で、日頃の外国語学習に対する意欲を改めて呼び起こすことにもつながりました。



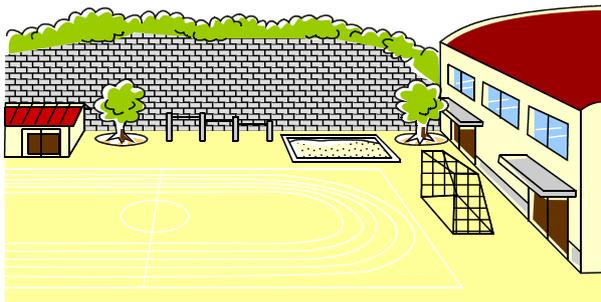
[スピーチ大会終了後の交流会]

## 6. 終わりに

ドーハ日本人学校は新設校です。しかも過去に一旦閉校された歴史を持つ世界でも珍しい日本人学校です。再び教育活動を行うことができるようになったのは日本政府はもちろんですが、カタール日本人会・学校運営理事会・在外公館・保護者の皆様の絶大なご支援のお陰です。さらにカタール政府の強力な後押しがあったことも忘れてはなりません。

こうした状況の中で私達派遣教員には、新生ドーハ日本人学校の新たな歴史をより良く刻んでいくことが望まれています。多くの方々の期待に応え、子ども達の確かで健やかな成長のために、何事にも前向きで意欲的な取り組みを続け、ドーハ日本人学校ならではの教育を創り上げていきたいと思えます。

ドーハ日本人学校ホームページアドレス  
<http://www.justmystage.com/home/doha/>



## トピック

### 高校生留学の促進について

国際理解教育係 湯浅 一哉

国際社会が大きく変動している現在、私たちは、自国の文化について深い認識を持ちながら、異なる文化についても広い理解と適応力を持つことが求められています。また、国際的なコミュニケーション能力を持って、主体的・積極的に国際社会に貢献する人材を育成することが、学校教育に課せられた極めて重大な課題となっています。かかる観点から、「高校生留学」は、単に知識を獲得するだけでなく、他国の生活・文化・歴史等への理解を深め、それを基盤にその国の人たちと協力して立ち向かえる力を培うなど、国際社会における今後の日本における意義は大きいものと考えられます。

国の教育再生懇談会による「これまでの審議のまとめ－第4次報告－（平成21年5月28日報告）」において、「高校生段階も含め、日本の若者の海外留学を大幅に増加させるため、奨学金制度や派遣制度を充実する。」と提言されています。さらに、平成21年6月23日に閣議決定された「経済財政改革の基本方針2009」においても、若年層の人材投資（留学・研修への支援）の拡充を行うことが盛り込まれています。

文部科学省では、従来より、高校生の留学交流団体である「全国高校生留学・交流団体連絡協議会」（高留連）に加盟する団体を実施する、1年間の交換留学プログラムに参加する高校生のうち、学資補填を必要とし成績優秀であるなど、一定の要件を満たす者を対象に、選考により、留学経費の一部を支援しています。

また、平成21年度補正予算において、高校生の留学促進予算の拡充が認められたことを受け、21年度については、「一般社団法人 海外留学協議会」（JAOS）の加盟団体を実施する「交換留学」「交換留学に準じる内容の1年間の留学プログラム」等に参加することが決定した高校生についても同様に、選考対象に含めることとしていますので、積極的に本件支援金制度をご活用ください。

なお、詳細については、下記URLをご参照ください。

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/ryugaku/1287518.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/1287518.htm)

## 事務連絡

### 新型インフルエンザ（A/H1N1） について

在外教育施設指導係長 栃木 達也

日頃より、児童生徒及び学校の安全確保に関し、御尽力いただき誠にありがとうございます。

現在、世界規模で新型インフルエンザ（A/H1N1。以下同じ。）の感染が拡大し、すでに日本人学校が所在する全ての国・地域において、新型インフルエンザの感染が確認されています。また、当課への児童生徒の感染や休校措置等の報告も多くなってきました。

各在外教育施設におかれましては、引き続き、児童生徒、派遣教員等に対し、感染予防対策等に関する周知徹底にご配慮願います。また、新たに新型インフルエンザに感染した事例及び臨時休業（学級閉鎖、学年閉鎖、休校）措置等学校運営に影響を及ぼす状況が発生した場合は、当課あて至急連絡いただくとともに、現地制度を踏まえ、学校運営委員会と連携し、在外公館と連絡を密にしながら、冷静に対処していただくようお願いいたします。

新型インフルエンザに関する最新の情報については、下記URLを御参照ください。

（首相官邸ホームページ）

<http://www.kantei.go.jp/jp/kikikanri/flu/swineflu/index.html>

（厚生労働省ホームページ）

<http://www.mhlw.go.jp/kinkyu/kenkou/influenza/index.html>

（外務省ホームページ）

<http://www.anzen.mofa.go.jp/>

（文部科学省ホームページ）

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/influtaisaku/](http://www.mext.go.jp/a_menu/influtaisaku/)

（国立感染症研究所ホームページ）

[http://idsc.nih.go.jp/disease/swine\\_influenza/index.html](http://idsc.nih.go.jp/disease/swine_influenza/index.html)

### 新小学校学習指導要領に基づく外国語活動の実施について

企画調査係 岡 峰生

平成20年3月28日に公示された新しい小学校学習指導要領（平成20年文部科学省告示第27号）（以下「新小学校学習指導要領」という。）については、平成21年4月から移行期間に入り、新小学校学習指導要領に基づく外国語活動の先行実施についても可能となったところですが、昨年全日本人学校を対象に実施した教育課程等実施状況調査における教育課程に係る部分の回答を確認したところ、新小学校学習指導要領に基づく外国語活動を実施していると回答をいただいた日本人学校が多数ありました。

本件については、平成21年9月8日付け21初国教第79号「日本人学校小学部における外国語活動の導入について（依頼）」を教育課程等実施状況調査において新小学校学習指導要領に基づく外国語活動を実施していると回答いただいた日本人学校へ発出し、対応をお願いしているところですが、新小学校学習指導要領に基づく外国語活動を実施する場合には、「在外教育施設の認定等に関する規程」第18条第1項の規定に基づき、文部科学大臣の承認を受ける必要がありますので、ご案内いたします。

各校においては、これまで独自に英会話等の外国語教育を実施されてきたことと思いますが、新小学校学習指導要領に基づく外国語活動を実施する際には、上記承認申請を忘れず行っていただくようお願いいたします。

### 人事異動のお知らせ

庶務・助成係長 岡崎 政典

昨年7～11月にかけて、以下のとおり人事異動がありましたのでお知らせいたします。

（7月21日付転出）

内藤 雷太 国際教育課長補佐

→大臣官房人事課専門官

（8月より内閣府へ出向）

(7月21日付転入)

松本 吉正 児童生徒課課長補佐  
→国際教育課長補佐

(7月28日付転出)

大森 摂生 国際教育課長  
→外務省

(7月31日付転入)

中井 一浩 外務省  
→国際教育課長

(8月1日付採用)

曾根 遥 新規採用  
→適応・日本語指導係

(9月10日付転出)

小島 英樹 庶務・助成係長  
(併)在外教育施設指導係長  
→退職

(9月18日付転入)

川村 武士 大臣官房会計課  
経理班経理第三係長  
→適応・日本語指導係長  
(併)国際理解教育係長

(9月18日付転出)

岡崎 政典 適応・日本語指導係長  
(併)国際理解教育係長  
→庶務・助成係長

栃木 達也 専門職  
→在外教育施設指導係長

(10月1日付転出)

大橋 史明 外国語教育推進室  
企画調整係  
→財務課庶務・助成係

(10月1日付転入)

上田 晃 財務課給与企画係  
→外国語教育推進室  
事業推進係

(10月1日付転出)

花田 百合 外国語教育推進室  
事業推進係  
→外国語教育推進室  
企画調整係

(11月1日付転出)

山本 剛 企画調査係長  
→大臣官房国際課専門職

(11月1日付転入)

齋藤 幸義 科学技術・学術政策局  
基盤政策課基礎人材係長  
→企画調査係長

(11月1日付転出)

上田 晃 外国語教育推進室  
事業推進係  
→外国語教育推進室  
企画調整係

花田 百合 外国語教育推進室  
企画調整係  
→外国語教育推進室  
事業推進係

## 退任者挨拶

(※ 肩書きは退任時のものです。)

国際教育課長 大森 摂生

かなり日にちも経ってしまいましたが、昨年7月28日に、外務省に戻り、在アラブ首長国連邦(UAE)大使館に発令となりました。8月24日にUAEの首都であるアブダビに着任し、このご挨拶もアブダビで記しています。私にとっては、中東はまったく土地勘のないところで、暑さが苦手なところもあり、着任前は不安もありましたが、到着してみると、確かに猛烈に暑くはあったものの、高層ビルの建ち並ぶ近代都市で、室内はどこも冷房が過剰なほどに効いており、なんとといっても、英語で仕事や日常生活に殆ど支障がないということで、現在は快適に生活しております。

国際教育課には2年弱ほど在籍しましたが、この短い期間の中でも、校長研や赴任前研修の機会にお会いした先生方はもちろん、帰国の際に国際教育課に足を運んでいただいた先生方など、数え切れない先生とお知り合いになる機会がありました。自分がこのまま外務省でずっと仕事をしていたら、こうした教育関係者の方々との貴重な出会いはあり得なかつただろうと思います。この場をお借りして、世界各地の日本人学校及び補習授業校の先生方にお礼を申し上げたいと思います。

UAEをはじめとする湾岸諸国は、多くは産油

国であり、現時点では豊富な外貨収入がありますが、原油が無尽蔵に存在するわけではなく、いずれの国も、長期的な視野から、現在の反映をどのようにこれからの世代に伝えていくかに知恵を絞っています。そうした中で、UAEでは、特に教育に力を入れ、特に科学技術分野に力点を置いた高等教育の充実をはかるとともに、初等中等教育についても、先進国の制度を参考にしながら、その発展を模索しています。こうした試みの一つとして、アブダビでは、幼稚園相当の子供たちを、フランスや中国といった国々の学校に入れて、そうした国々のカリキュラムで学習させ、ゆくゆくはこうした国々の高等教育機関に進ませようという野心的な取り組みを行っています。日本人学校にもこうしたアブダビの子供たちが入っています。私も着任早々日本人学校を見させていただきましたが、小学部1年のクラスに2人、幼稚部に4人のアブダビの子供たちが日本人の子供と机を並べて学んでいる姿に驚きと感動を感じた次第です。また、こうした子供を受け入れるために、校長先生や担当の先生、運営委員会の方々の苦労にも敬服いたしました。

私としても、これから何力所か海外のポストを経験することになりますが、文部科学省の経験を生かして、世界各地でのこうした取り組みについて、在外公館の立場から応援していきたいと考えています。今後ともよろしく願いいたします。

課長補佐 内藤 雷太

昨年8月1日付けで内閣府に出向いたしました。

平成20年4月に国際教育課の課長補佐として赴任してから1年3ヶ月ほどの短い間ではありましたが、大森課長のご指導の下、海外子女教育、帰国、外国人児童生徒教育、国際理解教育の各分野について、微力ではありますが、その進展に寄与できたことと考えております。

特に外国語教育に係る業務の一元化に関し国際教育課に外国語教育推進室を設置したことは、今後の国際教育課の発展に道を開くことができたと思います。また、平成21年4月にメキシコで発生した新型インフルエンザに対する対応については、当課が抱える危機管理の重要性を再認識することとなりました。

国際教育課では、それぞれの分野で、改善していかなければならない多くの課題を抱えていま

す。今後ともOBとして協力をさせていただきたいと思っております。

最後に、国際教育課を支えていただいている皆様に御礼を申し上げ退任の挨拶とさせていただきます。大変ありがとうございました。

外国語教育推進室企画調整係 大橋 史明

昨年10月1日付けで、初等中等教育局財務課庶務・助成係へ異動となりました豊橋市からの研修生の大橋史明です。国際教育課では、企画調整係で半年間お世話になりました。

主に、小学校で平成23年度から始まる外国語活動に関する業務に携わらせていただくことで、地方では担当できない全国的な業務に関わらせていただき、貴重な体験になりました。また、在外教育施設の情報に触れることで、海外で教育に励む教員の方々を身近に感じ、日々の活力にしておりました。

半年間と言う短い期間ではありましたが、ここで得た多くの貴重な経験を今後の業務にも役立てていきたいと考えております。至らざるご迷惑をおかけしたことをお詫びするとともに、お世話になったことについて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

企画調査係長 山本 剛

昨年11月1日付で、大臣官房国際課専門職への配置換の辞令を受け、1年3ヶ月ほどお世話になった国際教育課を離れることになりました。在任中にお世話になりました皆様に、この場を借りて御礼申し上げます。

振り返ってみるに、私が在籍した期間は、所掌の拡大など、国際教育課が変化していった時期とちょうど重なり、また、同課がこれまで以上に躍動した時期でもあったのではないかと思います。

その中で、海外子女教育の関係においては、シラチャ・ドーハ両日本人学校の認定、メルボルンとカイロの二回の校長研究協議会、在外教育施設の認定に関する規程の改定に携わらせていただくなど、非常に中身の濃い時間を過ごさせていただきました。実際に海外の教育現場でがんばっておられる関係者の皆様の姿に感銘を受け、また、そういった方々と一緒にお仕事をさせていただくことができたことは、私にとっての財産になりました。

さて、辞令を受けまして、大臣官房国際課専門職ということですが、実際には12月よりアメリカにある日本学術振興会サンフランシスコ研究連絡センターのアドバイザーとして着任しています。入省以来初めて文部科学省を離れての仕事となり、かつ海外赴任ということで、慣れない部分もあるものの、期待感を持って毎日楽しく仕事をさせていただいております。せっかくの機会でもあるので、ぜひ近隣の在外教育施設にもお伺いさせていただければなどと考えております。

繰り返しになりますが、これまでお世話になった皆様、ありがとうございました。また、今後ともご一緒する機会もあろうかと思っておりますのでその際はよろしく願いいたします。

## 新任者挨拶

国際教育課長 中井 一浩

若干日が経った後のご挨拶となって恐縮でございますが、昨年7月31日に外務省より文部科学省に出向を命じられ、同日付で初等中等教育局国際教育課長を拝命致しました。外務省では文化交流課長を務め、文化・人物交流の面では文部科学省とご縁がありましたが、教育実務に直接携わることは初めての経験となりますので、宜しく願い申し上げます。

教育実務こそ初めてですが、日本人学校とは在外勤務時に様々なご縁がありました。中でも最も記憶に強く残っているのが、2001年と2002年のパキスタンでの経験です。911事件後の動乱とアフガン戦争、そして、その翌年にかけて危険なまでに緊張したパキスタン・インド関係によって、パキスタンの在留邦人は、半年強の間に2回も国外退去を余儀なくされました。イスラマバード、カラチの日本人学校も、その都度休校となり、児童、教員やそのご家族の皆さんは国外脱出を繰り返されました。当時、私は在パキスタン大使館の政務参事官であり、その間の情勢分析、邦人退去計画の策定などの作業に忙殺されましたが、特に2回目の退去については、最初の退去からパキスタンに戻られて間もない時であったので、荷解きも完了しない中で再度の脱出をされた先生方もいらっしゃいました。本当に大変なことであったと思います。また、1997年から1999年にカンボディア大使館に勤務していた折りは、1997

年の内戦と1998年の混乱した選挙後の騒然とした社会の中で、邦人や現地のインターナショナルスクールに通う児童の安全確保に腐心した経験も持っています。

内戦、争乱などの治安要因にとどまらず、近年は新型インフルエンザ、SARSなど突発的な感染症の発生などへの対策も考えなければなりません。国際教育課の大きな仕事の一つは、在外教育施設が円滑、安全に運営されることへの支援です。在外教職員の方々の派遣や、給与・福利厚生に十全を期すとともに、教職員の方々が安んじて職務に専念でき、多感な時期を海外で学ぶ同胞子弟が安全に楽しく、得難い経験を積むことができるように、私としても、これまでの経験を活かしつつ、一層の努力をしていく所存です。

平成23年からは学習指導要領も新しく変わります。日本人学校のみでなく、補習授業校においても、新しい指導要領に適切に対応できるように種々の取り組み、工夫が必要です。また、着任後、多くの日本人学校等の関係者からお話を伺うにつれ、在外教育施設に求められる役割、性格も発展、変容しつつあるように思われます。文化交流の拠点などの役割を求める声もありますし、駐在員など帰国を予定されている邦人だけでなく、永住邦人の子弟も増えております。こうした難しい時期の仕事に取り組むに当たり、「海外子女教育便り・気球船」を読まれている皆様方の情報、ご意見は何よりも参考、後押しとなります。お気づきの点がありましたなら、遠慮なくお知らせ下さい。我々も、これを読まれる皆様方のバックアップに大いに汗をかきたいと思っております。何卒宜しく願い申し上げます。

課長補佐 松本 吉正

昨年7月21日付けで、初等中等教育局児童生徒課から異動して参りました松本と申します。

前職では、高校入試、高校生の就職等の進路指導やキャリア教育に関する業務に携わっていましたが、遡ること7年前まで間、2度に渡り計6年間、在外教育施設の認定や派遣業務の担当をさせていただきました。

少しでも皆様方のお役に立てるよう、精一杯努力していく所存ですので、よろしくお願い申し上げます。

適応・日本語指導係 曾根 遥

昨年8月より適応・日本語指導係および、国際理解教育係に参りました曾根遥と申します。

今までの経験を生かし、未熟ながら自分自身も国際教育課の一員として役に立てるよう、また国際教育に関して学んでいきたいと思ひます。

よろしくご指導くださいますようお願い申し上げます。

適応・日本語指導係長  
(併) 国際理解教育係長 川村 武士

昨年9月18日付けで国際教育課適応・日本語指導係長(併)国際理解教育係長へ配属となりました川村と申します。

私は平成13年度に入省して、今年度で9年目になりますが、それまでは主に課内における庶務の業務に携わっていました。また、前所属は初等中等教育局ではなく大臣官房会計課であり、ほぼ2年間、学校教育行政から離れていましたので、始めのうちは色々至らないところがあると思ひますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

外国語教育推進室事業推進係 上田 晃

昨年10月1日付で国際教育課外国語推進室事業推進係に異動になりました上田晃と申します。

福岡市から行政実務研修生として4月から9月まで、初等中等教育局財務課給与企画係にて、教職員の方々の給与制度等を担当しておりました。また、福岡市では、学校給食を担当しておりました。国際教育関係の業務に携わることは初めてなのですが、少しでも皆様のお役に立てるよう全力を尽くしたいと思っております。

ご迷惑をおかけすることもあるかと思ひますが、何卒ご指導のほどよろしくお願い致します。

企画調査係長 齋藤 幸義

昨年11月付けで、科学技術・学術政策局基盤政策課から異動して参りました齋藤と申します。前の部署では、日本の科学技術力の根幹である人材政策に携わっていました。

初中局への異動は初めてですが、前の局とはまた別の雰囲気を感じています(個人的に、課内の朝の挨拶がとても好きです)。早くここでの仕

事に慣れ、また、現場の方々と意見交換をさせていただき、少しでも皆様方のお役に立ちたいと思ひています。

何卒ご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。



MESSAGE

\*国際教育課「気球船」編集部より\*  
本誌へのご意見、ご感想をお待ちしています。下記までご連絡ください。  
連絡先E-mail: kokukyo@mext.go.jp  
こちらでも随時募集中です。

○投稿記事

(原稿料は出ません。ご了承ください。)

○新規配信依頼

～11・12月号の内容～

【世界の窓】	1
○シラチャ日本人学校設立のこと	1
シラチャ日本人学校校長 松田 幸造	
○新生ドーハ日本人学校開校	3
ドーハ日本人学校校長 酢谷 昌義	
【トピック】	6
○高校生留学の促進について	6
国際理解教育係 湯浅 一哉	
【事務連絡】	7
○新型インフルエンザ(A/H1N1) について	7
在外教育施設指導係長 栃木 達也	
○新小学校学習指導要領に基づく外国語 活動の実施について	7
企画調査係 岡 峰生	
○人事異動のお知らせ	7
庶務・助成係長 岡崎 政典	
○退任者挨拶	8
○新任者挨拶	10